

ステージラボ堺セッション 募集要領

ステージラボは、地域の文化・芸術に携わる公共ホール・劇場等並びに地方公共団体の職員の方々を対象とした研修プログラムです。少人数のゼミ形式によるセミナー、グループ討論、ワークショップなど双方向の研修で、地域における創造的な表現活動の環境づくりに取り組む人材の育成と、相互交流の促進を目指して実施します。

■ 開催概要

日程：2025年2月4日（火）～2月7日（金）[4日間]
※公立ホール・劇場マネージャーコースは、2月4日（火）～2月6日（木）[3日間]
会場：フェニーチェ堺（堺市民芸術文化ホール）（堺市堺区翁橋町2-1-1）
開講コース：①ホール入門コース、②自主事業コース、③公立ホール・劇場マネージャーコース
定員：各コース20名程度
参加費：研修参加は無料 ※交通、宿泊、滞在中の食事はご自身で手配、費用負担いただきます。
開催体制：主催／（一財）地域創造 共催／（公財）堺市文化振興財団（フェニーチェ堺）、堺市

①ホール入門コース

コーディネーター：小倉 由佳子（ロームシアター京都 事業課長、プログラムディレクター）

社会の変化に伴い、地域課題の複雑さ/複合さが増すことにより、公共ホール・劇場への期待は高まっています。そのような状況のなかで、あらためてベーシックなところから、その役割や可能性について、参加者と一緒に考えます。ゲストでお招きする、さまざまな現場での実践者（スタッフやアーティスト）のお話をその手がかりとしていきます。

[対象となる職員の目安]

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む）および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場（開館準備のための組織を含む）において業務経験年数1年半未満（開館準備のための組織は年数不問）の方。

②自主事業コース

コーディネーター：柿塚 拓真（公益財団法人九州交響楽団 音楽主幹補佐兼事業部長）

劇場、音楽堂や芸術団体による所謂、“社会包摂”事業が随分と増えて来ました。それらの活動は社会的価値を目的としたものですが、果たしてその価値は本当にあるのでしょうか。一方で実践者はそれらの活動を芸術活動として“面白い”と思っているのでしょうか。劇場が社会に対しておごることなく、おもねることもなく芸術をするために公共ホール職員はなにをすべきか。そのための頭の中の基礎体力をつけるコースにしたいと思います。

[対象となる職員の目安]

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む）および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。

③公立ホール・劇場マネージャーコース

コーディネーター：若林 朋子（プロジェクト・コーディネーター／立教大学大学院社会デザイン研究科 特任教授）

多様性や包摂的な視点が重視される昨今、公共ホールや劇場は「やるべきこと」「期待されること」が増え続けています。経営においても、労働環境の改善やハラスメント防止など、細やかな対応は欠かせません。そこで今回は、「対話とコミュニケーション」をテーマに、ホール・劇場の対外・対内マネジメントの土台を作る、深いレベルでの対話のあり方と関係性の構築について考えます。

[対象となる職員の目安]

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む）および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において管理職程度の職責を持つ方。

■ 申込方法

当財団ウェブサイト内「ステージラボ」ページ（<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html> ▶）から、①参加申込書、②アンケート回答票 をダウンロードし、必要事項をご記入のうえメール（宛先：kensyu@jafra.or.jp）でお申し込みください。※民間事業者の場合は③副申書が別途必要



申込締切 2024年11月25日（月）必着

※申し込まれた方には、2営業日以内に受付確認メールをお送りいたします。確認メールが届かない場合は、お電話でお問い合わせください。

【参加者の決定】

アンケート内容、応募状況などを考慮のうえ（アンケート重視）、参加コースと参加の可否の調整を行い、2024年12月中旬頃に、申込者あて文書によりご連絡致します。

【お問合せ】（一財）地域創造 芸術環境部 研修担当 TEL：03-5573-4183 E-mail：kensyu@jafra.or.jp

■コーディネーターからのメッセージ・プロフィール

①ホール入門コース

コーディネーター：小倉 由佳子（ロームシアター京都 事業課長、プログラムディレクター）

兵庫県丹波篠山市出身。2001年よりアイホール（伊丹市立演劇ホール）に勤務した後、フリーランスの舞台制作者を経て、2008年～2013年度アイホールディレクターとして、同劇場の主にダンスプログラムの公演、ワークショップを企画制作。2010年～2015年 KYOTO EXPERIMENT（京都国際舞台芸術祭）制作スタッフ。2015年文化庁新進芸術家海外研修制度によりロンドンに1年間滞在。舞台芸術制作者オープンネットワーク（ON-PAM）理事。劇場、音楽堂等連絡協議会（劇音協）副会長。2016年度より現劇場勤務、2021年度より現職。



公共ホール・劇場に携わる仕事に飛び込むと、多種多様な課題に直面します。それらを前に格闘されている毎日でしょうか。あるいは、まだそれらの存在に気づきつつも、日々の業務に忙殺されているところでしょうか。公共ホール・劇場の役割を考え、社会に開かれた公共事業としての企画・運営を行うことは、課題に向き合い、困難さに立ち向かう姿勢を必要とします。ただ、これはひとりで行うことではなく、一緒に働く人たちはもちろんのこと、地域の人たちや観客、アーティストなど、みんなで考えていくことです。さらにそれらの多くは、すでに確固たる答えがあるわけではなく、折々の状況を見ながら、創意工夫を引き出し探求し続けるものです。普段の場を少し離れて、新しい考えや人に出会う今回の機会を通して、全国の公共ホール・劇場をフィールドとする、共に試行錯誤する仲間を見つけてください。そして、公共ホール・劇場で働くことの意義、何より面白さを感じ、持ち帰ってもらえればと考えています。

②自主事業コース

コーディネーター：柿塚 拓真（公益財団法人九州交響楽団 音楽主幹補佐兼事業部長）

福岡第一高等学校音楽科、相愛大学音楽学部卒業。社会保険庁福岡社会保険事務局（当時）を経て2008年に大阪センチュリー交響楽団（現、日本センチュリー交響楽団）に入局。同楽団が豊中市立文化芸術センターの指定管理を担ったことから同センターへ出向し楽団を活用したホール事業を展開。2021年から神戸市民文化振興財団にて神戸市室内管弦楽団、同混声合唱団の企画制作を担当。2024年4月から現職。2013年1月にブリティッシュ・カウンシル主催の英国派遣プログラムに参加。2019年7月～9月には国際交流基金アジア・フェロシップとして国立ミャンマー交響楽団、王立バンコク交響楽団に滞在。



劇場、音楽堂や芸術団体による教育、福祉、まちづくり等の社会的な波及効果を意識した芸術活動が広がっています。果たして本当に効果があるのか疑問に思いませんか。この講座ではいくつかの取り組みをそれぞれの効果や評価も含めて確認をしていきます。限られた時間ですので分野はクラシック音楽の系統にあるもの、実践の座組が組織的なものに絞ります。一方でそれらの波及効果は事業の目的と成りえるのか、それらを目的にしてしまうと芸術活動である意味がなくなるのではないかととも考えたりすることもあるのでは。それに対して「答えはできません。」「考え続けましょう。」というのは正しい反面、公共ホール職員は最前線の実践者です。今日時点での答えを出して、今、実行する人です。そのためには知識と勇気が必要です。事例の実践者からそれらを習う機会にしたいと思います。

③公立ホール・劇場マネージャーコース

コーディネーター：若林 朋子（プロジェクト・コーディネーター／

立教大学大学院社会デザイン研究科 特任教授）

デザイン会社勤務を経て、英国で文化政策とアートマネジメントを学ぶ。1999～2013年公益社団法人企業メセナ協議会に勤務。プログラム・オフィサーとして企業による文化貢献の推進と芸術支援の環境整備に従事。2013年よりフリーランス。「調整する人」の必要を感じてきた経験から、相談者が思い描く「こうだったらいいな」を一緒に形にすべく、各種事業の企画立案、コーディネート、調査研究、自治体の文化政策や非営利法人の運営支援に取り組む。2016年より夜間と週末は社会人大学院教員。望ましい社会のありようをアートの視点で考えている。



多様性や包摂的な視点が重視される世の中にあって、公共ホールや劇場は、作品創造と上演以外にも、「やるべきこと」「期待されること」が増え続けています。情報保障、多文化共生、子どもの家庭環境への配慮など、対応の幅は格段に広がりました。経営においても、職員の労働環境の改善やハラスメント防止など、細やかな対応が求められるようになりました。多方面に目配せが必要な環境下で、ホール・劇場をどのように運営していくか、日々の悩みは尽きません。

そこで今回のマネージャーコースでは、「対話とコミュニケーション」をテーマに据えることにしました。ノウハウではなく、対話のあり方や、他者に向き合う姿勢そのものを考える時間を重ねます。ホール・劇場が醸し出す雰囲気や佇まいは、アーティスト、観客、地域住民、協働相手、支援者、職員など、関わる人々との良き関係性によって醸成されていきます。ホール・劇場の対外・対内マネジメントの土台を作る、深いレベルでの対話のあり方と関係性の構築について、皆さんとじっくり考えたいと思います。